

## 【2 長洲町 Nagasu Town】



長洲港から

長洲町では、町の西側に広がる有明海の干潟をはじめ、長洲港や造船所、菜切川河口、JR 鹿児島本線の長洲駅や列車の車窓など、町内各地から有明海越しに“北東面の雲仙岳”が眺望できます。その形状は、時に“ゴリラの寝姿”に形容されます。町内の小中学校の校歌にも雲仙岳が登場し、地域で古くから親しまれてきたことが分かります。

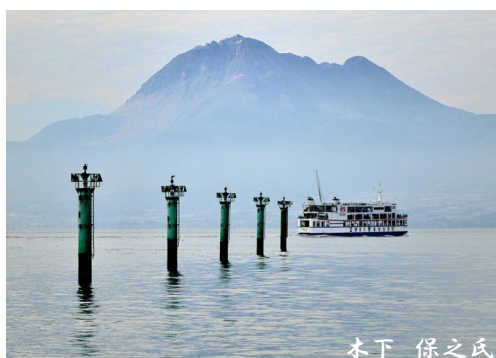
町内の四王子神社では、毎年新年に約 850 年の歴史を有する「破魔弓祭(的ばかい)」が行われ、締め込み姿の氏子達が神社に奉納された「的」の争奪戦を繰り広げますが、そのクライマックスで有明海へと入っていく場面では、背景に雲仙岳が見えています。

さらに歴史を遡れば、平安時代初期(713 年以降)に編纂された肥前国風土記において、長渚濱(長洲浜)が登場し、この地を訪れた景行天皇(第 12 代)が対岸の雲仙岳をご覧になり、“あの山は島か半島か？私は知りたい。”と仰せになり、臣下を派遣して確認させたところ、山から雲仙岳の神(高来津座)が下りて来て出迎えた、という逸話が残っています。長洲浜から眺められる火山島のような雲仙岳の姿は、古代の人々にとっても印象的な風景であった、ということでしょう。

町の西側に広がる有明海の干潟は、全国一の規模を誇りますが、その干潟の泥は、かつての阿蘇山の大噴火による噴出物を矢部川や菊池川が日々流し込んでいるもので、その泥が外洋に流れ出さないのは、雲仙岳そびえる島原半島が有明海の水の出入口を狭めているためです。また、長洲駅周辺の平地からは東に阿蘇山が眺望でき、阿蘇山と雲仙岳の間の歴史的な大三角形(※阿蘇地域のページ参照)を視覚的にイメージすることも可能です。

雲仙岳の様々な表情を探しながら、長洲町内を旅してみませんか？

●長洲町の観光情報はこちら ⇒ 長洲町まちづくり課 <http://www.town.nagasu.lg.jp/kankou/>



本下 保之氏  
長洲港から(右は有明フェリー)



辻 新治氏  
JR 鹿児島本線の車窓から